

港区立郷土歴史館

歴史館だより

橋から探る地域の歴史と記憶

平田 秀勝
(学芸員)

山の手の坂、下町の橋という言葉があるように、坂道と橋は古くから江戸・東京の町を認識するためのランドマークとして機能していました。港区は多摩から広がる武蔵野台地の東縁にあたり、麻布や赤坂、高輪、三田には江戸時代からの由来を持ち、地域の歴史を反映する坂道が多くあります。一方、下町とは異なりますが、明治末から昭和かけて造成された埋立地である芝浦港南地区に架設された橋にも港区の歴史や地域の特色をうかがうことのできるものが見られます。

藻塩橋(図①)は、大正12(1923)年に現在の芝浦三丁目、新芝運河に架設されました。藻塩とは玉藻などの海藻を乾燥、または焼いたものを海水に溶かし、その上澄みを煮詰めて作った塩のこと。室町時代、北陸から関東、東北をめぐる京都聖護院の僧・道興の紀行文集『廻国雑記』文明18(1486)年10月1日の条に芝浦の様子が歌に詠まれており、

柴(芝)のうらといへる所に、いたりければ、
しほ屋(塩屋)のけぶり(煙)、うちなひきて、
ものさひしさに、しほ木はこぶ船ともを見て

焼かぬより 藻塩の煙 名にぞたつ
船にこりつむ 芝のうら人

とあります。これは史料に見られる最初の芝浦についての記録で、藻塩橋という名称はこの歌に由来します。

大正11年、現在の芝浦二丁目から海岸三丁目の芝浦運河に架けられた浦島橋(図②)は、昔話の浦島太郎を連想しますが、芝浦の先に新しく出来た島(埋立地)に架けられた橋であることから、その名が付けられました。また、芝浦二丁目から三丁目の新芝北運河に架かる霞橋(図③、大正11年架設)、芝潟橋(図④、大正12年架設)は朝夕に霞がたなびく浜辺や潮の満ち引きにより見え隠れする芝浦の干潟を偲ん

で名付けたもので、かつて、ここが海であった記憶を思い起こさせます。

芝浦港南地区の橋の中でもユニークな由来を持つのが五色橋(図⑤)です。五色橋は、昭和15(1940)年に東京で開催が予定されていたオリンピックの自転車競技場が芝浦第9号埋立地(現、港南三丁目・四丁目)に建設されることとなり、競技場に向かうための橋として、昭和13年、現在の海岸三丁目から港南三丁目の高浜西運河に架設されました。その名称は5色に彩られたオリンピック・シンボルに由来しています。東京オリンピックは昭和12年に勃発した日中戦争の長期化により中止となりますが、五色橋は「幻の東京オリンピック」が遺したオリンピック・レガシーと言えるでしょう。



①藻塩橋 ②浦島橋 ③霞橋 ④芝潟橋 ⑤五色橋

芝浦港南地区は今から80~115年ほど前に誕生した港区の中でも新しい街です。そのため、他の地域と比べて史跡などは多くはありませんが、街中の橋や道からも地域の歴史や特色を垣間見ることができます。普段、見慣れた街並みも気に留めて調べてみると、新たな発見があるかもしれません。

参考文献 港区立港郷土資料館『増補港区近代沿革図集 芝・三田・芝浦』2007年
港区立港郷土資料館『増補港区近代沿革図集 高輪・白金・港南・台場』2008年



港区立郷土歴史館

歴史館だより

高輪築堤跡現地見学会

月岡 千栄
(学芸員)

高輪築堤跡とは、明治5(1872)年に新橋～横浜間において日本で初めて鉄道が開業するのにあたり、高輪海岸沿いの海上に線路を敷くために築かれた土台です。40年程使われた後、一帯の埋め立てに伴い姿を消しましたが、平成31(2019)年4月、品川駅改良工事の最中に高輪築堤の一部が発見されました。これをきっかけに、工事を行う東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)の協力のもと調査が実施され、令和2(2020)年には港区遺跡No.208「高輪築堤跡」として周知の埋蔵文化財包蔵地となりました。また、高輪築堤跡は我が国の交通の近代化や土木技術等の歴史を知る上でも重要であることから、令和3年9月に一部が国指定史跡に指定され、現地で保存されています(図1、黒線で囲った赤塗り部分)。



図1 調査地点位置図(現地見学会は☆印で実施)

TAKANAWA GATEWAY CITY第I期エリア(図1の1～4街区)は令和4年までに発掘調査が終了し、開発工事が進められています。今回の現地見学会は、1～4街区のさらに南、TAKANAWA GATEWAY CITY第II期エリア(図1の5・6街区)で実施されました。5・6街区の一部では、過去の調査で高輪築堤跡を確認していましたが、5・6街区全体に築堤がどの程度残っているかの確認には至っていなかったため、令和6年9月～12月にかけて5・6街区に調査区を9ヶ所(合計約860㎡、図1の赤で囲った範囲)設定し、高輪築堤の残存状況を確認するための調査を実施しました。調査の結果、全ての調査区で高輪築堤跡が確認され、5・6街区全体に高輪築堤跡が残っていることが分かりました。

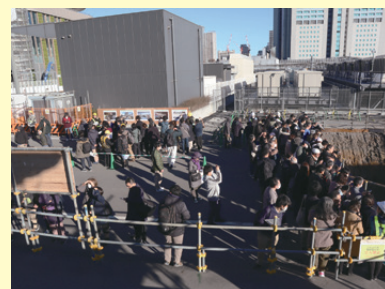
高輪築堤跡の現地見学会は2～4街区において令和3年度に複数回実施をしましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、抽選による人数制限を設けていました。今回はより多くの方が見学できるように、人数制限は設けず、申し込み不要でどなたでも見学可能としました。



見学会で公開した高輪築堤跡海側石垣

令和6年12月8日(日)、9日(月)の2日間で行われた見学会は、両日とも人の流れが途切れることなく、初日に2,544名、2日目に1,762名、延べ4,306名が参加されました。見学会では高輪築堤跡の海側石垣が発見された調査区1ヶ所を公開し、パネルを用いた説明や出土遺物展示コーナーも設けました。来場者からは、「実際に遺構を見ることができて良かった」という感想や、これからも現地見学会が実施されるのか、今回確認された高輪築堤跡はどうか、1～4街区の調査は現在どうなっているのか等の質問も多く、関心がとても高い印象を受けました。現地見学会で配布した資料は港区立郷土歴史館のホームページで公開しています(令和7年3月現在)。

今回の確認調査で発見された遺構は全て発見時の姿のまま土中に埋め戻し、調査を終了しています。今後は調査で記録した図面などを整理し、調査成果をまとめていく予定です。



見学会会場の様子(12月8日午後)